

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 50人 国語B 50人

② 算数A 50人 算数B 50人

5 留意事項

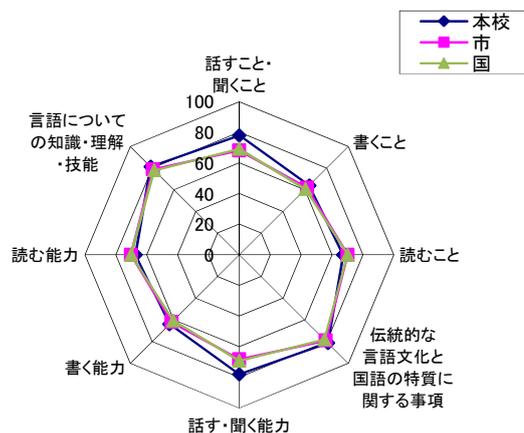
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

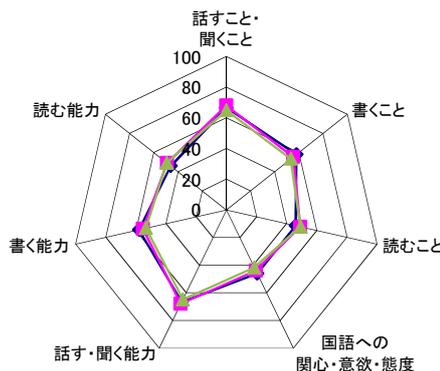
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.0	68.2	69.2
	書くこと	64.0	62.0	60.6
	読むこと	67.3	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.3	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	78.0	68.2	69.2
	書く能力	64.0	62.0	60.6
	読む能力	67.3	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	81.3	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	68.0	64.9
	書くこと	58.0	55.3	53.4
	読むこと	46.0	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	46.0	43.9	41.7
	話す・聞く能力	66.7	68.0	64.9
	書く能力	58.0	55.3	53.4
	読む能力	46.0	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

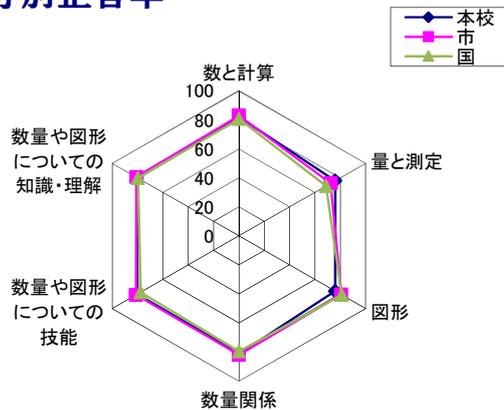
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、A・Bとも市や全国の平均を上回った。</p> <p>○話の構成を工夫して話したり、聞き手の反応を見て話したりすることができるなどの、スピーチメモのよさを捉える設問での正答率が、高かった。</p> <p>●目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すことができるかどうかをみる設問では、やや課題が見られた。</p>	<p>・発表を行う際には、話の構成を意識し相手の反応を見ながら話すことができるように、スピーチメモを活用して話すなどの指導の工夫を今後も行っていく。</p> <p>・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話すために、話の構成や内容を工夫し、声量や速度、抑揚や間の取り方など場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるように指導していく必要がある。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、A・Bとも市や全国の平均を上回った。</p> <p>○文章を読み、内容を短く言い換える設問の正答率が県や全国の平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>●手紙の書き方を問う設問の正答率が低かった。</p> <p>●条件に合わせて文章を書いたり文章の中から中心となる言葉を選んだりすることについて課題がある。</p>	<p>・授業や行事でお世話になった地域の方にお礼状を出すときに、手紙の形式(全文・本文・末文・後付け)に気を付けて書くことができるように指導する。</p> <p>・文章を読むときに、①段落の中で中心となる文や大切な言葉を選ぶ ②段落の内容を短く言い換えて小見出しをつける ③前後の段落の関係(意見と理由の関係になっているなど)を整理する活動をさらに意識して行っていく。</p> <p>・条件を設定して作文を書く機会を設け、条件に合わせて書く方法を練習する。</p>
読むこと	<p>○自分の考えを広げたり、深めたりするための発言の意図を捉える設問での正答率が、高かった。</p> <p>●平均正答率は、A・Bとも市や全国の平均を下回った。</p> <p>●目的に応じて文章の中から必要な情報を見付ける設問や、物語を読み自分の考えをまとめる設問では、課題が見られた。</p>	<p>・書き手が述べている要旨や必要な情報などを捉えながら自分の考えをもつことができるようにするため、読書量を増やしたり、文章に触れる機会を増やしたりしていく。</p> <p>・目的に応じて必要な情報を見付けて読む能力を育てるため、調べ学習など資料を集める際には、調べる目的や事柄を明確にした上で選書する習慣を身に付けるよう指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は、市や全国の平均を上回った。</p> <p>○中でも、ことわざの使い方の例として適切なものを選択する設問や漢字を書く設問での正答率が、高かった。</p> <p>●俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する設問が、市や全国の平均を下回り、課題が見られた。</p>	<p>・俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流し、自分が想像したことを広げたり深めたりする活動を行う。</p> <p>・俳句を作る活動を行う際には、歳時記を参考にして、自分が使ってみたい季語を集めたり、様々な俳句を音読したりしながら、自分が句にしたい題材を探す活動を行う。</p>

宇都宮市立西原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

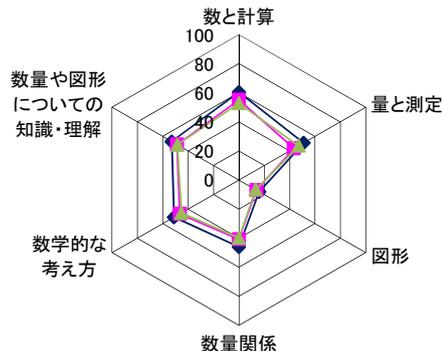
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.0	82.9	80.6
	量と測定	76.0	72.5	68.8
	図形	76.0	80.8	81.1
	数量関係	81.2	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	80.3	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	80.9	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.4	55.1	52.8
	量と測定	51.0	43.4	47.0
	図形	16.0	13.8	13.2
	数量関係	46.0	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	51.3	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	53.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、算数A、Bともに市や全国平均を上回っている。</p> <p>○B問題の、示された考えを解釈し図に表現する問題や、二つの数量の関係を一般化して捉えそのきまりを記述する問題が、全国の平均正答率を10ポイント以上上回った。</p> <p>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算の問題や直線とその間の数に着目して問題場面に適用させる問題で課題が見られた。</p>	<p>・整数や分数、小数などの四則計算については、計算のしかたを話し合う活動を取り入れながら、正しく理解できるようにする。また、授業だけでなく朝の学習や家庭学習でも、計算の習熟を図る。</p> <p>・学期末などに、学んだことを活用する問題に取り組む機会を設ける。また、児童相互の意見の交流や、自分の考えを書く活動を意図的に取り入れ、筋道を立てて分かりやすく説明する力を育てる。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は、算数A、Bともに市や全国平均を上回っている。</p> <p>○A問題の重さや長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題で、正答率が全国の平均正答率を10ポイント近く上回った。B問題の飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題でも、正答率が全国の平均正答率を10ポイント近く上回った。</p> <p>●B問題の仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題では、正答率が国の平均を若干下回った。</p>	<p>・実際に量を測定する活動を通して、自分の考えを確かめたり、筋道立てて説明できるように学習活動をより改善していく。</p> <p>・朝の学習や家庭学習でも、計画的に問題に取り組ませ習熟を図っていく。また、単元末や学期末などに、学んだことを活用する問題に取り組む機会を設ける。</p>
図形	<p>○算数Bの「最大の満月の直径に近い硬貨を選び、理由を書く」問題では、平均正答率が市、全国の平均を上回っている。</p> <p>●「円を使って正五角形をかくとき、円の中心の周りの角を何度ずつ分割すればよいかを書く」問題や、「立方体の展開図から平行な面を選ぶ」問題では、市や全国の平均正答率を下回り、課題が見られた。</p>	<p>・二つの図形を重ねたり、比べたりする活動を通して、図形の関係性を理解できるようにする。計算だけで理解させるのではなく、模型などを用いて実際に角度を測ったりする活動を取り入れるようにする。</p> <p>・展開図に関する学習に対しても、実際に図形を用いて、組み立てたり広げたりしながら理解ができるようにする。何度か行った後に、頭の中でしっかりイメージできるように、朝の学習などを通して多くの問題に取り組めるようにする。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、算数A、Bともに市や全国平均を上回っている。</p> <p>○□を用いて問題場面を式に表す問題は、市や全国の平均より正答率を上回った。</p> <p>●平均や割合、単位量当たり大きさを使った活用問題では、課題がみられた。</p>	<p>・割合の学習については、基準量、比較量、割合の関係を数直線で表すなど、数量の関係を表現する活動を今後も取り入れていく。また、基準量と比較量の大小関係を基に、二つの数量関係を的確にとらえることができるように丁寧に指導していく。</p> <p>・仮の平均を用いた考え方や示された数値を基準とした場合の平均の求め方についても理解できるように、問題に取り組ませ、習熟を図っていく。</p>

宇都宮市立西原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の質問についての肯定的回答の割合は、県や国と比べ高かった。また、「友達との約束を守っている」についての質問の肯定的回答率は、100%であった。本校では、毎日の帰りの会に「元気・がんばり・思いやりタイム(今日一日を振り返って、友達が頑張っていたことを発表する活動)」を設けたり、毎時間の授業で「今日の学び(役に立った友達の考えを含めて、本時の学びを振り返る活動)」をノートにまとめ発表し合ったりして、お互いのよさを認め合う活動を大切にしている。今後も、自己肯定感や友達を大切にすることについて支援をしていく。

○「国語の勉強は大切だと思う」「算数の勉強は大切だと思う」の質問についての肯定的回答の割合や「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をしている」「家で学校の宿題をしている」と答えた児童の割合は、県や全国と比べ高く、学習に対する意欲・関心がある傾向が見られた。引き続き、学校全体で共通理解を図りながら学習指導に力を入れていきたい。

○「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい」と回答する児童の割合は、県や全国に比べ低く、自分の考えを文でまとめることについて抵抗を感じている児童が少ないことが分かった。また、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができている」という質問の肯定的回答の割合は、県や全国の肯定的回答の割合に比べて高かった。本校では、昨年度までの2年間、一人一人の学びを深める授業を目指して研究を行ってきた。その中で、ノートに自分の考えを書くことやお互いの考えを比較・検討する場面の設定などにも力を入れ、授業を行ってきた。このことを大切にしながら、今年度も一人一人の学びを深め広げられるような学習を目指し、日々の授業を行っていく。

○「今住んでいる地域の行事に参加してる」「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」という質問の肯定的回答の割合は、県や全国と比べ高かった。本校では、「PTA・地域とともに歩む学校づくり」を学校経営の基盤の一つとして教育活動に取り組んでいる。家庭科、書写、学級活動、総合的な活動など多くの授業で、地域のボランティアの方と関わる機会が多い。また、西原地区には数多くの行事があり、多くの児童が参加している。児童が、地域の一員としての意識をもって行事に参加したり、地域の人と積極的に関わっていきけるように支援していく。

●「読書は好きか」についての肯定的回答の割合や「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書しているか」について30分以上読書していると答えた児童の割合は、県や国に比べて低かった。本校では、「読書タイム」「読書週間」を「本の会」や市立図書館、家庭との連携を図って計画的に実施している。これらの活動が今後さらに充実できるように、様々な教育活動の中で読書意識を高揚させる取り組みを考え、改善をしていく。

●「将来の夢や目標を持っている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」という質問の肯定的回答の割合は、県や全国に比べ低かった。本校では、総合的な学習の時間で、4年の「1/2成人式をしよう」、6年の「西原の先輩に学ぼう」で一人一人が将来の夢や目標を考えていく学習を行っている。今後も子どもたちが自分の夢や目標をもち、努力していくことの大切さを理解できるよう支援していきたい。

宇都宮市立西原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	西原小「学習の約束」をもとに基本的な学習態度の徹底をすることができるよう全教職員で共通理解を図った。また、朝の学習や家庭学習で漢字練習や計算問題を繰り返し学習するよう支援し、基礎・基本の定着に取り組んできた。	国語・算数についての知識や理解の調査結果を見ると、市や全国の平均を上回っている。また、質問紙に関する調査から、「家で自分で計画をたてて勉強している」と答える児童が県や全国の平均を上回っている。
他者との協同的な学び	言語活動の充実や学び合いの場の設定により、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の展開を全教職員で共通理解を図って取り組んできた。	質問紙に関する調査から、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい」と答える児童は県や全国に比べ低く、自分の考えを文でまとめることについて抵抗を感じている児童が少ない。今後の継続的な指導によって、他者との協同的な学びによる思考の深まりや、広がりも実感させていきたい。
授業におけるまとめと振り返りの充実	授業の中で本日の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、各自が分かったことを振り返り、ノートに記述する時間を設けている。	質問紙に関する調査から、「受けた授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っていた」と答える児童は、県や全国の平均を大きく上回っている。「授業で扱うノートに学習の目標(ねらい・まとめ)を書いている」と答える児童は県や全国の平均を下回り、課題が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「読むこと」については、課題が見られた。また、他の領域でも設問によっては課題が見られた。	・読む力の育成 ・復習により定着を図る学習の充実	・調べ学習で目的や事柄を明確にした選書をするよう継続的に支援することで読書の質を上げる努力をする。 ・日常の授業で、自分の考えを書く時間を確保できるよう工夫をしていく。学期末に複数単元の内容をまとめた復習を行う。